

内容

1 巻 アスレティックトレーナーの役割	1
2 巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防	11
3 巻 コンディショニング	16
4 巻 リコンディショニング	16
5 巻 救急対応	21
6 巻 検査・測定と評価	24

1 巻 アスレティックトレーナーの役割

● P1 注釈

修正前:

コンピテンシー:高い業績や成果につながる行動特性および「能力」「スキル」「知識」. 参照:コンピテンシーとは、[レファレンスブック](#), 日本スポーツ協会, 東京, p380, 2019.

修正後:

コンピテンシー:高い業績や成果につながる行動特性および「能力」「スキル」「知識」. 参照:コンピテンシーとは、[リファレンスブック](#), 日本スポーツ協会, p380, 2019.

● P2 左欄

修正前:2021年 10 月現在で、[4,729](#) 名の資格者

修正後:2024年 10 月現在で、[5,616](#) 名の資格者

● P2 右欄 7 行目

修正前:これらの情勢を的確に捉えながら、これからの[わが国における](#)スポーツ現場でのメディカル・コンディショニング体制をさらに充実させ、

修正後:これらの情勢を的確に捉えながら、これからのスポーツ現場でのメディカル・コンディショニング体制をさらに充実させ、

● P3 左欄下から 10 行目

修正前:, スポーツ活動に伴う外傷・障害や病態における医学的管理後の[プロセスにおける](#)コンディショニング回復としてのリコンディショニングに関わる知識と実践力が必要とされる。

修正後:スポーツ活動に伴う外傷・障害や病態[に対する](#)医学的管理後のコンディショニング回復[である](#)リコンディショニングに関わる知識と実践力が必要とされる。

● P4 左欄 4 ハイパフォーマンスからアクティブライフまで

修正前:ハイパフォーマンスから[アクティブライフ](#)まで

修正後:ハイパフォーマンスから[ライフパフォーマンス](#)まで

● P4 右欄 20 行目

修正前:カリキュラム構成を俯瞰すれば、資格取得までの基本的な素養に加えて継続して学び続ける方法と姿勢, 何よりも学術的基盤を重視し,

修正後:カリキュラム構成を俯瞰すれば、資格取得までの基本的な素養に加えて継続して学び続ける姿勢, 何よりも学術的基盤を重視し,

● P18 図 1-3-1 それぞれの公認スポーツ指導者資格取得に必要な共通科目 差し替え

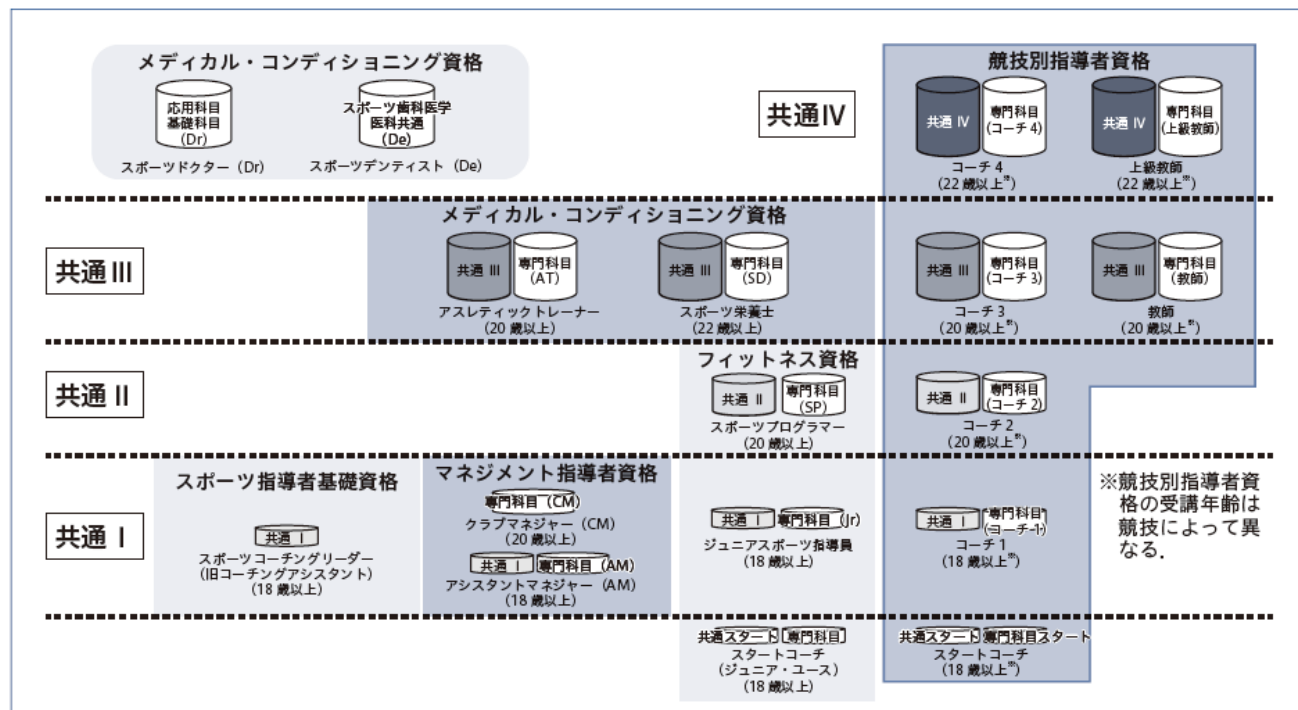


図 1-3-1 それぞれの公認スポーツ指導者資格取得に必要な共通科目

(文献 1 より)

● P19 表 1-3-2 共通科目Ⅲの科目名,内容,時間数 差し替え

表 1-3-2 共通科目Ⅲの科目名, 内容, 時間数

講習会科目	時間数 (h)
第1章 コーチングを理解しよう 1. コーチングとは 2. コーチに求められる役割 3. コーチに求められる知識とスキル 4. 対他者力を磨こう 5. 対自己力を磨こう 6. スポーツの意義と価値 7. スポーツの価値を守るスポーツ権 8. スポーツの自治ーガバナンスとコンプライアンスー 9. 暴力・ハラスメントの根絶 10. スポーツのインテグリティ 11. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 12. スポーツ仲裁 13. スポーツ倫理 14. 時代をリードするコーチング	150
第2章 グッドコーチに求められる医・科学的知識 1. スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 2. 体力のトレーニング 3. スキルトレーニング 4. 心のトレーニング 5. スポーツと栄養 6. スポーツに関連する医学的知識 7. アンチ・ドーピング	
第3章 現場・環境に応じたコーチング 1. コーチング環境の特徴 2. ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング 3. スポーツ組織のマネジメント 4. 障がい者とスポーツ	

● P19 表 1-3-3 JSPO-AT 専門教育課程のカリキュラム

修正前:スポーツ科学の基礎、スポーツ医学の基礎、人体の構造と機能

修正後:スポーツ科学概論、スポーツ医学概論、人体の解剖と機能

● P21

修正前:4. アスリートの安全と健康管理

修正後:4. プレーヤーの安全と健康管理

● P22 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 左列

修正前:では、アスレティックトレーナー発祥の米国では、どのような経過を辿ってきたのであろうか？

修正後:では、アスレティックトレーナー発祥の米国では、どのような経緯を辿ってきたのであろうか？

● P22 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 左列

修正前:1878 年(明治 11)に馬の調教師として米国に渡り、そこで陸上競技に興味を持ち陸上競技選手のパフォーマンスを発揮するためのトレーニングを研究し成果を上げ、1881(明治 14)年にはハーバード大学陸上競技チームのトレーニングを手伝うために学生管理競技委員会において最初のアスレティックトレーナーとして雇用された。

修正後:1878 年(明治 11)に馬の調教師として米国に渡った。当時、陸上競技に興味を持っていた彼は陸上競

技選手のパフォーマンスを発揮するためのトレーニングを研究しており、その成果が求められ、1881(明治 14)年にハーバード大学陸上競技チームのトレーニングを手伝うために学生管理競技委員会において最初のアスレティックトレーナーとして雇用された。

- P22 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 左列

修正前:上記文章に続き以下を追加

修正後:その指導はトレーニングのみに留まらず、体調を整えるためのすべての分野の改善に及んだ。

- P22 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 左列

修正前:また、「トレーナー」という名称は前述のとおり米国以外では「コーチ」を指す名称

修正後:「トレーナー」という名称は前述のとおり米国以外では「コーチ」を指す名称

- P.22 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 左列

修正前:外傷の発生頻度が高いフットボールでは、外傷の応急処置や外傷からの回復、競技への復帰などの医・科学的なアプローチが必要になり、

修正後:外傷の発生頻度が高いフットボールでは、外傷の応急処置や受傷後の回復、競技への復帰などの医・科学的なアプローチが必要になり、

- P.22 図 1-4-1 Dropping the Bucket and Sponge – A History of Early Athletic Training 1881-1974 差し替え

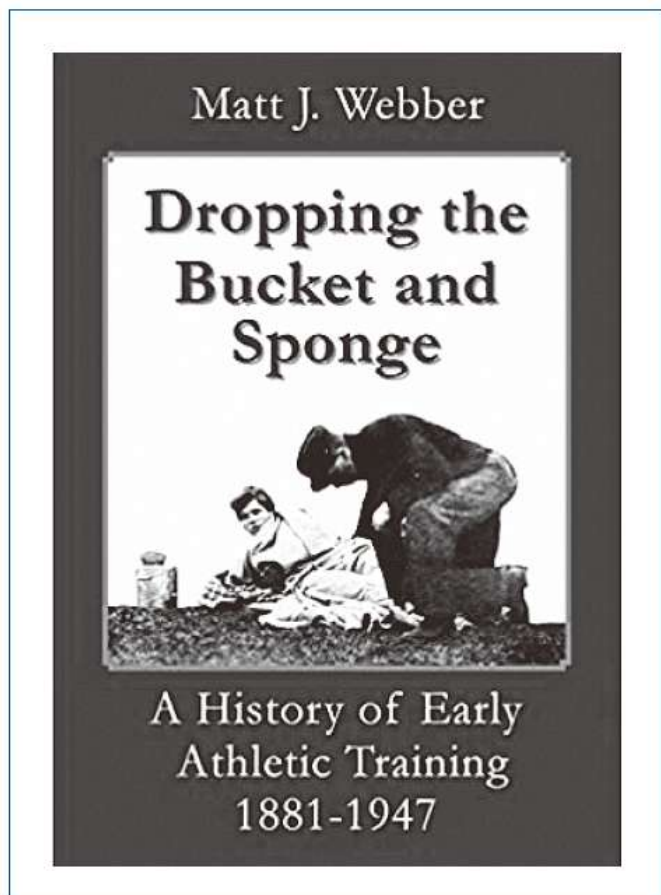


図 1-4-1 Dropping the Bucket and Sponge – A History of Early Athletic Training 1881-1974

- P-23 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 左列

修正前:一方、一般体育が盛んになるにつれ、

修正後:さらに、一般体育が盛んになるにつれ、

- P-23 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)とは 右列

修正前:また、戦前、戦後のプロ野球球団のトレーナーとして従事するマッサージ師に就任した。

修正後:また、戦前、戦後のプロ野球球団のトレーナーとして従事するマッサージ師に就任した。当時は、全球団を数名のトレーナーがサポートする体制であった。

- P.36 (1) NSCA の沿革 第 1 段落 4-6行目

修正前:2021 年現在、世界 88 カ国に 40,000 人以上の資格認定者が活動する国際的な団体である

修正後:2024 年現在、世界各国に資格認定者を含む 60,000 人以上の会員が活動する国際的な団体である

- P.36 (1) NSCA の沿革 第 1 段落8-9行目

修正前:2021 年 3 月末時点で総会員数は約 9,000 名を数えている。

修正後:2024 年 8 月末時点で総会員数は約 10,000 名を数えている。

- P.37 (5)NSCA 認定教育プログラム(NSCA ERP)9-11 行目

修正前:なお 2021 年段階では、日本国内における新認証プログラムの設定に関しては未定である。

修正後:なお 2024 年 10 月の段階では、日本国内における新認証プログラムは 2036 年からの運用開始が予定されている。

- P37 図 1-5-1(最右上の部分)

修正前:2030 年 CSCS の新認証教育プログラムの運用開始(日本は未定)

修正後:2030 年 CSCS の新認証教育プログラムの運用開始(日本は 2036 年開始予定)

- P38 (4) JATI 認定トレーニング指導者養成校・養成機関 第 1 段落 12-14 行目

修正前:2020 年 12 月時点で JATI の養成校・養成機関は全国で、おおよそ 180 機関となっている。

修正後:2024 年 8 月時点で JATI 養成校・養成機関は全国で、おおよそ 200 の養成校・養成機関となっている

- P38 (2) JATI の認定資格 1 段落 5-6 行目

修正前:2021 年 3 月時点では約 6,500 名の有資格者が国内外で活動している⁶⁾。

修正後:2024 年 7 月時点で約 7,000名の有資格者が国内外で活動している⁵⁾。

- P38 参考文献

修正前:1) National strength and Conditioning Association,

<https://www.nasca.com/>(2021 年 4 月 5 日閲覧)

修正後:1) National strength and Conditioning Association,

<https://www.nasca.com/>(2024 年 10 月 10 日閲覧)

- P38 参考文献

修正前:5) 日本トレーニング指導者協会, <https://jati.jp/>(2021 年 4 月 5 日閲覧)

修正後:5) 日本トレーニング指導者協会, <https://jati.jp/>(2024 年 10 月 10 日閲覧)

- P38 参考文献

修正前:6) 日本トレーニング指導者協会,JATI®トレーニング指導者®のご案内,

https://jati.jp/dl/download/ninteishikaku_2021_ver01.Pdf, (2021 年 4 月 5 日閲覧)

修正後:6) 日本トレーニング指導者協会, JATI®トレーニング指導者®認定資格のご案内

https://jati.jp/dl/download/ninteishikaku_2022_ver03.Pdf (2024 年 10 月 10 日閲覧)

- P40-左 8 行目

修正前:スポーツには様々な危険性が内在しており

修正後:スポーツには様々な危険が内在しており

- P41-左 27~29 行目

修正前:予防においてJSPO-ATが担うべき役割について理解を深めるとともに、安全管理として取り組むべき内容について学ぶ。

修正後:予防において具体的取り組みや、JSPO-AT が担うべき役割について理解を深める。

- P43-左 10～11 行目

修正前:要因として、「性別」,「年齢・特性」,「環境」,「感染症」,「防具・用具・道具」,「競技特性とトレーニング要因」,

修正後:要因として、「性別」,「年齢・特性」,「感染症」,「環境」,「用具・防具・設備」,「競技・種目特性」,

- P.60 アスレティックトレーナーの法的諸問題 注釈

修正前:❶ただし、本原稿執筆現時点では、努力義務となっている。なお、新型コロナウイルス蔓延により、第 75 回鹿児島国体は、2020 年は開催できずに 2023(令和 5)年に延期となった。

修正後:❶ただし、本原稿執筆時点では、努力義務となっている。なお、新型コロナウイルス蔓延により、第 75 回鹿児島国体は、2020 年は開催できずに 2023(令和 5)年に延期となった。

- P.60 アスレティックトレーナーの法的諸問題 右列

修正前:2021 年 10 月 1 日現在で、登録者数は 4,729 名となっている。

修正後:2024 年 10 月 1 日現在で、登録者数は 5,616 名となっている。

- P.61 アスレティックトレーナーの法的諸問題 左列

修正前:前述のとおり、AT に関する国家資格は存在しないものの、その多様な役割や専門的な知識や経験が必要とされる業務の性質上、

修正後:前述のとおり、AT に関する国家資格は存在しないものの、その多様な役割や専門的な知識,経験が必要とされる業務の性質上、

- P.62 アスレティックトレーナーの法的諸問題 (2)柔道整復師法

修正前:もちろん,この場合も

修正後:この場合も

- P.62 アスレティックトレーナーの法的諸問題 (3)理学療法士及び作業療法士法

修正前:(厚生労働省医政局事課長:医政医発 1127 第 3 号平成 25 年 11 月 27 日「理学療法士の名称の使用等について(通知)」)

修正後:参考文献に移動し以下のとおり修正

医政医発 1127 第 3 号平成 25 年 11 月 27 日厚生労働省医政局医事課長通知「理学療法士の名称の使用等について(通知)」

- P.63 アスレティックトレーナーの法的諸問題 3. 裁判例からみるアスレティックトレーナーの法的な義務

修正前:医療(診療)契約において医師は

修正後:診療(医療)契約において医師は

- P.64～66 アスレティックトレーナーの法的諸問題 判時の前に「判決」を追加

修正前:【京都地裁平成 4 年 3 月 23 日判時 1469 号 135 頁】

修正後:【京都地裁平成 4 年 3 月 23 日判決判時 1469 号 135 頁】

- P.64 アスレティックトレーナーの法的諸問題 (2)安全に施術する義務

修正前:頸椎椎間板ヘルニア等の障害を受けた事故につき

修正後:頸椎椎間板ヘルニア等の障害を負った事故につき

- P.64 アスレティックトレーナーの法的諸問題 (2)安全に施術する義務

修正前:事前のX線写真などにより医学的検査をし、

修正後:事前にX線写真などにより医学的検査をし、

- P.65 アスレティックトレーナーの法的諸問題 3)スポーツ現場での救急対応

修正前:この行政解釈は、AEDの使用に関して示されたものであり、AEDの使用以外の「医行為」に該当する行為については、これを、かかる行政解釈に従って救急対応として行った場合であっても

修正後:この行政解釈は、AEDの使用に関して示されたものであり、AEDの使用以外の「医行為」に該当する行為については、かかる行政解釈に従って救急対応として行った場合であっても

- P.66 アスレティックトレーナーの法的諸問題 参考文献

全ての判決年月日の後に「判決」を挿入し、参考文献の記載順を並び替え
(例)

修正前:平成17年7月26日医政発第0726005号

修正後:平成17年7月26日判決医政発第0726005号

● P68 図 3-3-2 JSPO-AT が具体的に対応すべき主要なリスク 差し替え

	1) 練習・試合前の段階	2) 練習・試合中の段階	3) 事故発生後の段階
スポーツ活動中の 外傷・障害予防	遂行要因：最適なトレーニング指導，適切な指導（年齢・健康状態・トレーニングの習熟度に合わせた間違いのない・段階的な指導） 予防（危険予測と必要な物品や条件の準備）		
アスリートの安全と 健康管理	メディカルチェックなどのスクリーニングの計画と実施，情報管理 重大なリスクの抽出 内的要因・外的要因のスクリーニング	リスク要因に関する条件のモニタリングと記録，情報管理	応急対応（感染や二次的障害への配慮，適切な応急対応と対応に伴う実技遂行能力，情報管理） 補償申請 再発防止のためのPDCA
コンディショニング	リスクに関する教育・啓蒙，プレーヤーの自己管理能力や態度の育成		
リコンディショニング	遂行要因：適切な状況把握，適切なプログラムの提案，指導に伴う安全管理 量・質・順 異常に気がつく，情報管理		
医療資格者へ引き継ぐ までの救急対応	危険予測と予知 救急体制の構築・EAPの作成など	応急対応（感染や二次的障害への配慮，適切な応急対応と対応に伴う実技遂行能力，情報管理）	

図 3-3-2 JSPO-AT が具体的に対応すべき主要なリスク

● P68 図 3-3-2 JSPO-AT が具体的に対応すべき主要なリスク

修正前： 図内のテキスト修正 :救急処置

修正後： 救急対応

● P68 図 3-3-2 JSPO-AT が具体的に対応すべき主要なリスク

修正前： 図内のテキスト修正 :的確な応急処置、処置に伴う

修正後： 適切な応急対応と対応に伴う

● P73 左列

修正前：そして協働する

修正後：や協働する

● P83 アスレティックトレーナーの新たな職域 左列17行目

修正前：動作パターン

修正後：正常な動作パターン

● P88-右 21～22 行目

修正前：海外におけるATの調査では，

修正後：海外におけるATの健康問題に関する調査では，

- P89-左 21～25 行目

修正前:JSPO-ATの注意力, 集中力, 判断力が低下すると, AT業務の質の低下に影響するだけでなく, 場面に
よってはプレイヤーの安全を脅かす可能性もある

修正後:JSPO-AT の注意力, 集中力, 判断力が低下することは, AT 業務の質の低下だけでなく, 時にプレー
ヤーの安全を脅かすことにも繋がる可能性がある

- P126

修正前: コーチングアシスタント

修正後:スポーツコーチングリーダー

- P127 図 5-5-1 スタートコーチの合計時間数

修正前:19 時間

修正後:19 時間以上

- P 139

修正前:一次情報は, これらの評価項目を 1つ1つ確認しながら,

修正後:一次情報は,これらの評価項目を一つ一つ確認しながら,

- P159-左 29～31 行目

修正前:Internet of Things(IoT)や Information and Communication Technology(ICT)の発
展

修正後:Internet of Things(IoT)や Information and Communication Technology(ICT)など
の発展

- P159-右 21 行目

修正前:思考・態度では

修正後:思考・態度は

- P162-右 21 行目

修正前:研修会を主催する AT 連絡協議会の

修正後:研修会を主催する AT 協議会の

- P162-右 34 行目

修正前:情報は非常に多い。

修正後:情報は多岐にわたる。

- P162-右 37～38 行目

修正前:わが国におけるアスレティックトレーニング学に関連する学会としては,

修正後:わが国におけるアスレティックトレーニング学領域の学術団体としては,

- P163-右 30 行目

修正前:古い情報なども存在する。

修正後:古い情報なども存在するため注意が必要である。

- P165-右 15～16 行目

修正前:実際のスポーツ現場で活用することにより

修正後:実際のスポーツ現場で様々な取り組みを実践することにより

- p.169 AT 学会の目的

変更前:

アスレティックトレーナーが関わる全ての領域の科学研究とその発展に寄与するとともに、会員相互の連携と情報交換を促進し、あわせて内外の関係機関との交流を図ることによって、アスレティックトレーニング学の普及・発展に寄与することを目指す。

変更後:

アスレティックトレーニング学の発展と普及を通じて、全ての人々が安全に、かつ安心して継続的なスポーツ活動に取り組める社会の構築に貢献することを目的とする。

2 巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防

- p.7 右上段

修正前:マネージャー

修正後:マネジャー

- p.36 図 4-1-1 の左上

修正前:マネージャー

修正後:マネジャー

- P51 右側 「(5)コンディション指標や尺度を統一する」 上から 6 行目

修正前:これらは、主観評価の定量化を目的としており、

修正後:これらは、主観的評価の定量化を目的としており、

- P52 右側 上から 10－11 行目

修正前:スポーツ医・科学スタッフへのフィードバックの早期化や迅速な情報共有も可能となっている。

修正後:スポーツ医・科学スタッフへのフィードバックの早期化や迅速な情報共有も可能となっている。

- P54 左側 「ケ. BMI」 上から 1－2 行目

修正前:body mass index(BMI)が18.5kg/m²未満では無月経の……

修正後:BMI(body mass index)が18.5kg/m²未満では無月経の……

- P62 3)物を揃える:救急資器材や設備

修正前:AED や担架などの資器材は運営側で用意し

修正後:AED や担架などの資器材は施設側や運営側で用意し

- P62 3)物を揃える:救急資器材や設備

修正前:搬送器具(担架, スパインボード, スクープストレッチャーなど)

修正後:搬送器具(担架, スパインボード, 搬送用ストレッチャー／カートなど)

- P63 4)体制を整える:EAP

修正前:訴訟の対象となったりするケースがあるほど定式化している.

修正後:訴訟の対象となったりするケースがあるほど定式化されている.

- P63 4)体制を整える:EAP

修正前:ホーム側が自分たちの施設の EAP を相手チームの JSPO-AT や責任者と共有したり,

修正後:ホーム側が自分たちの施設の EAP を相手チームの JSPO-AT や責任者と事前ミーティングで共有したり,

- P63 4)体制を整える:EAP

修正前:ロッカールームに貼ったりするなど, 防災の避難経路図と同じようにすぐに目の留まる場所へ掲示することを推奨する(図 4-5-4).

修正後:防災の避難経路図と同じようにロッカールームのすぐに目の留まる場所へ掲示したりすることを推奨する(図 4-5-4).

- P65 2)継続教育の重要性

修正前:継続教育単位の取得と 2 年おきの資格更新を求めている(2022 年現在).

修正後:継続教育単位の取得と 2 年おきの資格更新を求めている(2024 年現在).

- P130

修正前: Medina McKeon JM, et al

修正後: McKeon JM, et al

- P 164 背屈制限のテーピング(説明文)

修正前: 対象となる外傷・障害:フットボーラズアングル

修正後: 対象となる外傷・障害:フットボーラズアングル, アキレス腱炎, 前脛腓靱帯損傷.

- P180 右列下から 10 行目

修正前:鉄分が多く含まれる赤身の肉やほうれん草, ニンジンや雑穀があるが, アマランサスやキノアといった食材は

修正後: 鉄分が多く含まれる赤身の肉やほうれん草, ニンジンや雑穀, なかでも, アマランサスやキノアといった食材は

- P204 左 L3-

修正前:骨折や靱帯損傷などの重症度の高い外傷や, 疲労骨折などの障害が多く発生する。

修正後:骨折や靱帯損傷などの重症度の高い急性外傷や, 疲労骨折などの慢性障害が多く発生する。

- P205 4(2)②

修正前:X 脚, O 脚(内反膝/外反膝)

修正後:X 脚(外反膝), O 脚(内反膝)

- P206 左 (2) 外反ストレステスト

修正前:膝関節の外側不安定性を評価する

修正後:膝関節の内側不安定性を評価する

- P206 左 (2)内反ストレステスト

修正前:膝関節伸展位と膝関節軽度屈曲位で実施する.

修正後:膝関節軽度屈曲位で実施する.

- P206 右 L12

修正前:股関節:屈曲/伸展, 外転, 外旋/内旋

修正後:股関節:屈曲/伸展, 外転/内転, 外旋/内旋

- P218～226 女性特有の問題 差し替え(別添参照)

- P245 右列下から 2 行目

修正前:競技中の感染対策としての血液感染症の対策

修正後:競技中の血液感染症対策

- P266

修正前: AMS への暴露既往が AMS のリスクを下げることから～

修正後: 高地環境への暴露既往が AMS のリスクを下げることから～

- p.285 左中段

修正前: マネージャー

修正後: マネジャー

● P301 図 8-5-15 ノアン・イット結び 差し替え

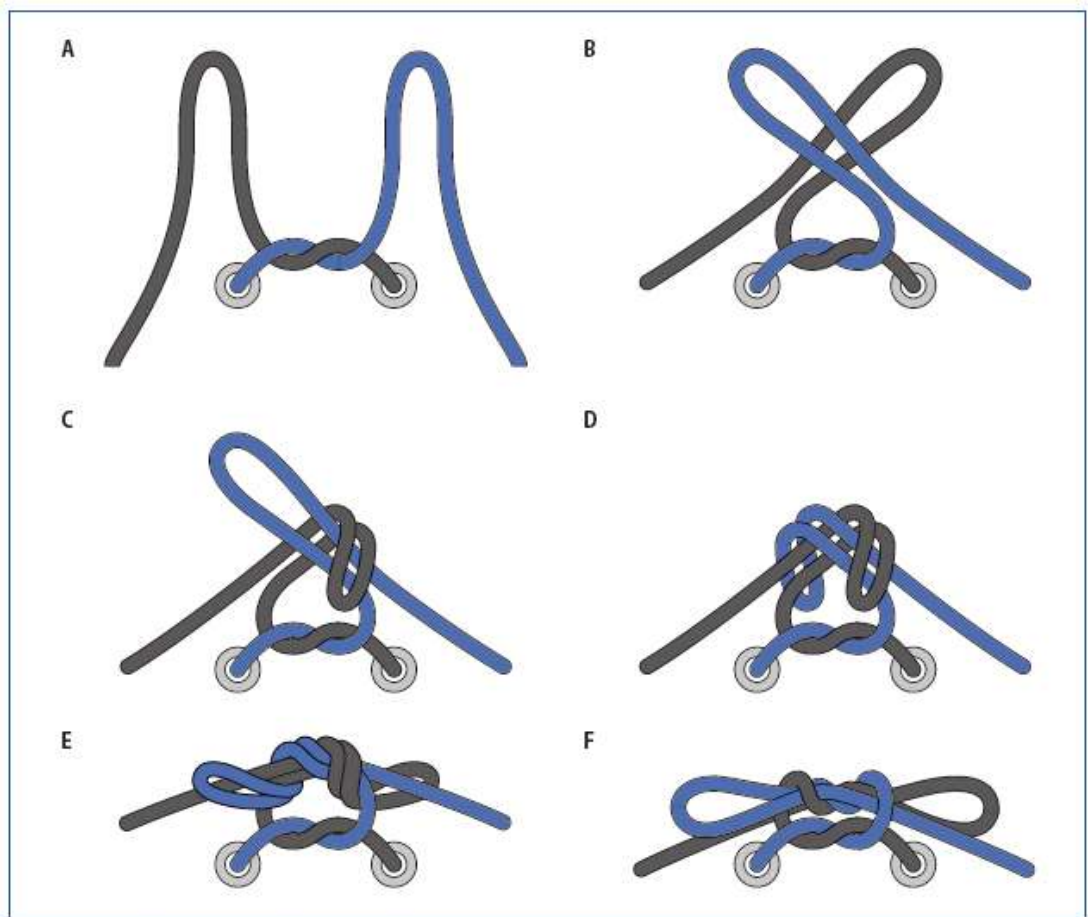


図 8-5-16 イアン・セキュア・ノット結び

● P316 表 8-7-1 走動作のチェックポイント 2) ミッドサポート期

修正前：・足部アーチ：内側縦アーチの低下の程度

修正後：・足部アーチ：内側縦アーチの降下の程度

● P319 表 8-7-2 走動作に影響を与える要因 差し替え

表 8-7-2 走動作に影響を与える要因

内的要因	外的要因	
身体的な構造と機能	ランニングの環境	ランニングの方法と量
・身体組成の変化 ・静的アライメントの問題 ・筋力，筋持久力の低下 ・関節動揺性・不安定性 ・関節可動域の制限 ・筋伸張性の低下 ・足部機能の低下 ・複数関節の運動協調性の低下 ・全身持久力の低下 ・その他	・練習場所（走路） ・陸上競技トラック（オールウェザー，土） ・道路（舗装路） ・芝生 ・ウッドチップ ・体育館 ・上り坂，下り坂 ・カーブ ・用具 ・シューズ ・季節，天候，気温 ・その他	・カーブの走方向 ・走速度 ・走行時間・距離 ・練習方法（配列やインターバルなど） ・その他

（文献 17 より改変）

- P330 1 列目 17 行目

修正前: 爆発的な速度変化を伴う COD には必要な能力である^{4,5)}。

修正後: 急激な速度変化を伴う COD には必要な能力である^{4,5)}。

- P331 1 列目 1 行目

修正前: また COD は、方向転換する瞬間だけではなく

修正後: また、COD は方向転換する瞬間だけではなく

- P333 1 列目 2 行目から 4 行目

修正前: また、FFC だけでなく、その前後の動作も重要であるため、FFC に加え、

修正後: また、FFC だけではなく、方向転換前の減速と方向転換後の再加速も含めて、

- P333 2 列目 4 行目

修正前: 180°(またはそれに近い角度)

修正後: 180°(またはそれに近い急角度)

- P335 1 列目 20~21 行目

修正前: ドライブで切り込んでいく場合、

修正後: ドライブで切り込んでいく際に、

- P335 2 列目 4 行目から 5 行目

修正前: サイドステップのカットング動作と類似する点が多い。

修正後: (削除)

- P336 2 列目 4 行目から 7 行目

修正前: つまり、絶対的筋力があるだけでは、急激な減速、方向転換ができないケースがあり、結果的に FFC の仕事量を増やし、

修正後: つまり、状況に応じた筋力発揮ができなければ、急激な減速や方向転換ができず、結果的に FFC の仕事量を増やし、

- P337 図 8-7-41 のタイトル

修正前: COD に関連する外傷・障害予防のためのストレングストレーニングのプログレッション例

修正後: COD に関連する外傷・障害予防のためのレジスタンストレーニングのプログレッション例

- P365 8滑走動作 1滑走動作の基本的なバイオメカニクス

修正前: 高速系のGS では体重の 3 倍ほどの反力が発生する。

修正後: GS では体重の 3 倍ほどの反力が発生する。

- P366 8滑走動作 3好ましい滑走動作の特徴 1 段目 11 行目

修正前: 高速系種目の DH や SL では、

修正後: 高速系種目の SG や DH では、

- p.79 図 4-2-9 B 説明

修正前:リフト

修正後:スクワット

- P.107 トレーニング各論 注釈の追加

修正後:横方向への移動をクロスオーバーステップで実施する場合もある。

- p.169~174 女性アスリートの特性 差し替え(別添参照)

4 巻 リコンディショニング

- P74 表 5-2-1 各種ハムストリングスタイトネステストの相関係数 差し替え

表 5-2-1 各種ハムストリングスタイトネステストの相関係数

	AKE	PSLR	VSR	FFD
AKE		$r = -.284^*$ $r^2 = .081$ $p = .01$	$r = -.297^*$ $r^2 = .088$ $p = .007$	$r = .263^*$ $r^2 = .069$ $p = .018$
PSLR	$r = -.284^*$ $r^2 = .081$ $p = .01$		$r = -.536^*$ $r^2 = .287$ $p < .001$	$r = -.565^*$ $r^2 = .319$ $p < .001$
VSR	$r = -.297^*$ $r^2 = .088$ $p = .007$	$r = .536^*$ $r^2 = .287$ $p < .001$		$r = -.798^*$ $r^2 = .637$ $p < .001$
FFD	$r = .263^*$ $r^2 = .069$ $p = .018$	$r = -.565^*$ $r^2 = .319$ $p < .001$	$r = -.798^*$ $r^2 = .637$ $p < .001$	

N=81 (健康成人). AKE : active knee extension test, PSLR : passive straight leg raise test, VSR : V-sit and reach test (長座体前屈), FFD : finger floor distance test (立位体前屈). * $p < 0.05$

(文献 5 より)

- P91—右の下から 4 行目

修正前:駆動回転数が少ないと

修正後:駆動回転数が小さいと

- p95 第5章 5.姿勢, アライメント

修正前:

骨盤が前方へ変位し、股関節伸展位となる。重心を正常な位置に保つため胸椎部の後方移動が生じる。腰椎の前弯と胸椎の後弯が増強した姿勢を呈する

修正後:

骨盤が前方へ変位し、股関節伸展位となる。重心を正常な位置に保つため胸椎部の後方移動が生じる。腰椎下部は平坦化し、胸腰椎移行部の後弯さらには、胸椎の後弯が増強した姿勢を呈する

- P106 3 問題への対応策 1 体重管理(減量・増量・維持)における検査・測定の結果の活用の項 下から1—

2行目

修正前:測定の手法的な手法や注意点などの詳細については、第6巻「測定と評価」に詳細を譲る。

修正後:測定の手法的な手法や注意点については、第6巻「検査・測定と評価」に詳細を譲る。

● P107 4 計量に関するルールの理解 上から 10-11 行目

修正前:規則が定められている。(改行) JSPO-AT は、競技時の計量に関する規則を

修正後: 競技時の計量に関する規則が定められている。(改行) JSPO-AT は、これらの規則を

● P107 6 長期的なサポート体制の確立 10-12 行目

修正前: 減量や低体脂肪率の維持の過程で、不必要に詳細な食事記録など過剰な負担をかけたりしないように

修正後: また, 減量や低体脂肪率の維持の過程で、不必要に詳細な食事記録など、プレーヤーに過剰な負担をかけないように

● p.137

前:上肢運動連鎖安定性テスト

後:上肢閉鎖運動連鎖安定性テスト

● P175 肘・前腕 投球障害後

修正前:⑤ケーススタディ(3)機能的問題の確認方法(検査・測定と評価):「図 6-5-1」「図 6-5-2」

修正後:「図 6-5-8」、「図 6-5-9」、「図 6-5-10」

● P216 左-9 行目

修正前:大腿脛骨関節

修正後:脛骨大腿関節

● P244-図 6-11-10 ケース1 差し替え

・競技・種目:陸上競技・長距離 ・競技レベル:全国大会レベル ・性別:女性 ・身長:155cm ・体重:43kg ・年齢:22 歳 ・主訴:2 カ月前に右足底腱膜炎、現在、痛みはなくなったが、スムーズに進まない。 ・走動作の特徴(リコンディショニング前) ・右フットストライク期で骨盤、体幹が後傾しており、前足部接地であるが足部に対して頭部の位置が後方にある(図 6-11-11①上図)。 ・右テイクオフ期(図 6-11-11③上図)で股関節伸展運動が減少し、代償として足関節底屈運動が増大することで、上方向への移動が大きくなる。全体として、上下動が大きい走動作になっている。 ・機能評価					
MMT		右	左	ROM	
股関節	屈曲	4(5)	4(5)	股関節 屈曲	130°
	伸展	4(5)	5	股関節 伸展	10° (15°)
足関節	背屈	5	5	足関節 背屈 (膝伸展位)	10° (16°)
	底屈	5	5	足関節 底屈 (膝屈曲位)	19° (27°)
足関節・足部	回外	4(5)	5	筋タ이트ネス	
	回内	4(5)	5	右	左
体幹	屈曲	4(5)		股関節屈曲距離	2 横指 (0 横指) 1 横指 (0 横指)

※足部機能:・ウィンドラス機構:右足部低下(低下改善)
 ・足趾外転:右:不可(可), 左:可
 ※() 内:リコンディショニング後の結果

図 6-11-10 ケース 1

● P247-図 6-11-13 ケース 2 差し替え

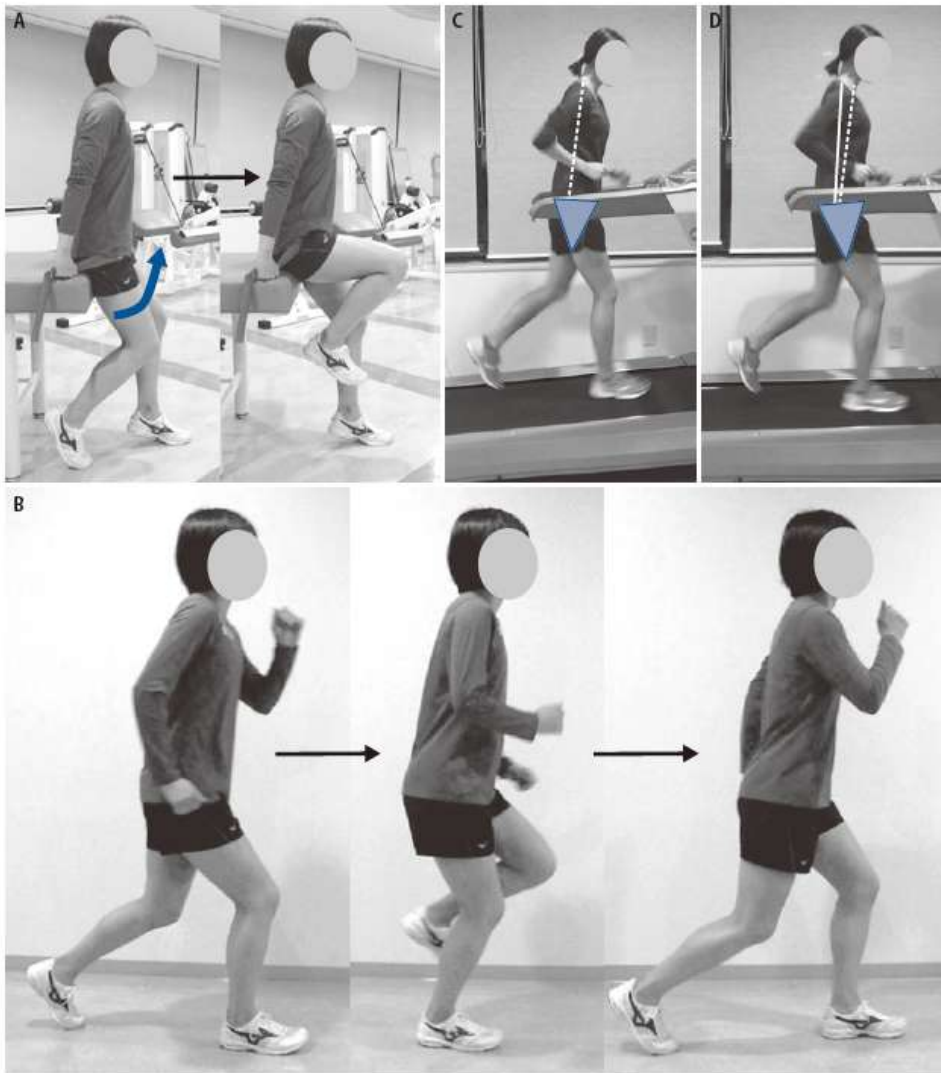


図 6-11-12 ケース 1 への対応例

股関節屈曲チューブ抵抗エクササイズ (A) では、単に股関節屈曲運動を行うだけでなく、走動作を想定して骨盤および体幹の前傾位を意識させ、膝関節屈曲と足関節背屈の運動も協調させて実施する。改善させた運動器機能の動作への応用、下肢関節の運動協調性の改善、動作イメージの修正などを目的にニーベントウォーキング (KBW : B)、フォワードスイングエクササイズ、コンビネーションカーフレイズなどの動作エクササイズを実施する。

上り傾斜 (C) では、平地 (D) に比べ、骨盤および体幹が前傾位となることで、股関節伸展運動も改善されやすい。上り坂やトレッドミルの上り傾斜を利用して、体幹後傾位の改善を図ることも有効である (D の破線は C の破線と同じ傾斜角度を示す)。

● P257-表 7-1-1 走動作のチェックポイント ②ミッドサポート期

修正前：・足部アーチ：内側縦アーチの低下の程度

修正後：・足部アーチ：内側縦アーチの隆下の程度

● P260-図 7-1-5 ケース1 差し替え

・競技・種目：陸上競技・長距離 ・競技レベル：全国大会レベル ・性別：女性 ・身長：160 cm ・体重：45 kg ・年齢：25 歳 ・主訴：2 カ月前に右内側ハムストリングス近位部に痛みあり。 現在は痛みはなくなったが、右大腿部後面内側が張りやすい。 ・走動作の問題（リコンディショニング前） ・右ミッドサポート期での股関節内転・内旋、足部内転が増大（図 7-1-6①上図） ・右フットストライク期は前足部接地、ブレーキング接地（疼痛回避の習慣が残存）。足部に対して頭部の位置が後方にある（図 7-1-6②上図） ・左フォワードスイング期（図 7-1-6③上図）では、疼痛回避の習慣の残存により、左膝関節屈曲運動が小さく、早期に伸展運動が開始し、右下肢のサポート期の時間を短縮。 ・機能評価					
MMT	右	左		右	左
股関節 屈曲	5	5	股関節 外転	4 (5)	4 (5)
伸展(中間位)	5	5	外旋	4 (5)	5
伸展(外転位)	5	5	膝関節 屈曲	4 (5)	5
伸展(内転位)	4 (5)	5	足関節 背屈	4 (5)	5
筋タイトネス	右	左	※() 内の数値：リコンディショニング後の結果		
SLR	77° (84°)	85°			

図 7-1-5 ケース 1

● P263-図 7-1-9 ケース 2 差し替え

・競技・種目：陸上競技・長距離 ・競技レベル：全国大会レベル ・性別：女性 ・身長：164 cm ・体重：47 kg ・年齢：23 歳 ・主訴：1 カ月前に右腰部痛。現在は痛みはなくなったが、右腰部が張りやすい。 ・走動作の問題（リコンディショニング前） ・左下肢のテイクオフ期～フォロースルー期（図 7-1-10②・③上図）での体幹右回旋の増大および腰椎前弯の増強がみられる。 ・全体を通じて体幹右傾斜が増大（図 7-1-10④上図）。 ・機能評価					
MMT	右	左	ROM	右	左
股関節 屈曲	5	5	股関節 屈曲	130°	130°
伸展	4 (5)	4 (5)	伸展	7° (15°)	6° (15°)
外転	4 (5)	4 (5)			
体幹 回旋	左回旋 4	右回旋 5			

※() 内の数値：リコンディショニング後の結果

※腹筋群の機能
体幹軸圧負荷：腹筋群の収縮：右>左、筋収縮：腹筋群<腰部筋群
→リコンディショニング後：腹筋群の機能低下改善

図 7-1-9 ケース 2

● P272 1 列目の 19 行目

修正前： 受傷側の脚の横方向のカットングでは健側と比較して動きのキレが悪いと感じている。

修正後： 患側で横方向へカットングを行うと健側と比較して動きのキレが悪いと感じている。

● P272 1 列目の 26 行目

修正前： その要因として、各部位の可動域や筋力は回復し、最大筋力も左右差はないものの、爆発的な筋力発揮での左右差が挙げられた。

修正後： (改行せず、詰める)各部位の可動域や単関節運動の筋力は回復し、最大筋力の左右差はないが、爆発的な筋力発揮の左右差が動作不良の要因と考えられた。

- P272 2 列目の 3 行目

修正前: 最大筋力の測定として, 片脚スクワット (フリーウエイト) を実施し,

修正後: 多関節運動の最大筋力測定として, 片脚スクワット (フリーウエイト) を実施し,

- P272 2 列目の 9 行目

修正前: 片脚でのバウンディング(連続 3 段跳び)での左右差を確認する. また, Y テスト(5 m の直線スプリント

修正後: 片脚でのバウンディング(連続 3 段跳び)での左右差を確認する. (ここで改行)・Y テスト(5m の直線スプリント

- P272 2 列目 4) リコンディショニングの実際

修正前: ②爆発的な片脚のプッシュ動作において, マルアライメントを生じることなく実行できる.

修正後: ②マルアライメントを生じることなく回旋を伴う爆発的な片脚のプッシュ動作を行うことができる.

- P272 2 列目の 18~20 行目

修正前: 各部位の可動域や筋力に関しては, 関節可動域測定、徒手筋力検査法で股関節中心に実施する。

修正後: 股関節、下肢関節を中心に各部位の関節可動域測定、徒手筋力検査を実施する。

- P273 1 列目の 7 行目

修正前: RFD(rate of force development)

修正後: rate of force development(RFD)

- P273 1 列目の 13 行目

修正前: 屈曲してしゃがむ.

修正後: 屈曲してしゃがみ、瞬時に動きを止める.

- P273 1 列目の 21 行目

修正前: 筋の立ち上がりを向上させる

修正後: 素早い力発揮を向上させる

- P273 2 列目の 5~6 行目

修正前: 上半身を回旋させるような側方からの負荷に抵抗して、

修正後: 上半身への回旋負荷及び側方への負荷に抵抗して、

- P275 1 列目の 3~4 行目

修正前: トレーニングする. (改行)受傷機転となったシチュエーション

修正後: トレーニングする. (改行せず詰める)受傷機転となったシチュエーション

- P275 1 列目の 19~20 行目

修正前: ディフェンスの対応が遅れがちであり、

修正後: ディフェンスの対応が遅れがちである。

- P275 2列目の1行目

修正前：外転筋群の低下、

修正後：外転筋群の筋力低下、

- P275 2列目の27行目

修正前：「パワー」が要改善であった。

修正後：パワーの段階で改善が必要であった。

- P275 2列目の29-30行目

修正前：ムーブメントスキルの獲得を目的に改善のための。

修正後：ムーブメントスキル改善のための

- P275 2列目の31行目

修正前：ここでは割愛するが

修正後：(削除)

5 巻 救急対応

- P35 参考文献7

修正前：日本アスレティックトレーニング学会誌

修正後：日本アスレティックトレーニング学会誌

- P36 新規で2ページ追加(別紙参照)

※P38以降は、2ページずつずれる。本データは第2版のページ表記に基づく。

- P93 左33行目

修正前：安全かつ迅速に行い緊急度を掌握する

修正後：安全かつ迅速に行い緊急度・重症度を掌握する

- P93 右34行目

修正前：知識やスキルを習得すべきである。

修正後：知識やスキルを習得しなければならない。

- P94 左11~12行目

修正前：疑わしい場合は躊躇せず医療機関へ搬送すべきである。

修正後：疑わしい場合は躊躇せず医療機関へ搬送する。

- P96 左3行目

修正前：⑦バイタル計測資器材

修正後：⑦バイタルサイン計測資器材

- P95 右21~22行目

修正前: プレーヤーの体格を考慮しベルトを多めに用意することが望ましい

修正後: プレーヤーの体格を考慮しベルトを多めに用意する

- P96 左 8～9 行目

修正前: 血中酸素飽和度測定器などの準備を検討すべきである。

修正後: 血中酸素飽和度測定器などの準備を検討する。

- P96 左 13 行目

修正前: 毛布などの用意も検討すべきである。

修正後: 毛布などの用意も検討する。

- P96 左 21 行目

修正前: 緊急度と重症度は状況評価

修正後: 緊急度と重症度は、状況評価

- P96 ページ 左 26 行目

修正前: では、バイタルの数値が一時安定していても

修正後: では、バイタルサインの数値が一時安定していても

- P96 左 27～28 行目

修正前: バイタルの数値だけで安心してしまい

修正後: バイタルサインの数値だけで安心してしまい

- P96 左 28～29 行目

修正前: 対応が遅れることがないよう留意すべきである。

修正後: 対応が遅れることがないよう留意する。

- P96 左 35～36 行目

修正前: 危険を排除することを優先すべきである

修正後: 危険を排除することを優先する

- P99 左 3～4 行目

修正前: 慎重に判断すべきである。

修正後: 慎重に判断する。

- P99 左 19～20 行目

修正前: 上肢の評価だけでなく下肢の評価も行うべきである。

修正後: 上肢の評価だけでなく下肢の評価も行う。

- P99 左 22～23 行目

修正前: 必ず両側で確認すべきである。

修正後: 必ず両側で確認する。

- P99 左 31～32 行目

修正前:視野が狭くなっていたりしないか確認するとよい。

修正後:視野が狭くなっていたりしないか確認する。

- P100 左 9～10 行目

修正前:会話が可能な間に聴取しておくことが望ましい

修正後:会話が可能な間に聴取しておく

- 100 ページ 左側 13 行目

修正前:①バイタル(呼吸状態・循環・意識レベル

修正後:①バイタルサイン(呼吸状態・循環・意識レベル

- P102 右 28 行目

修正前:実施を検討すべきである

修正後:実施を検討する

- P106 右 12 行目

修正前:配置についても検討すべきである。

修正後:配置についても検討する。

- P107 左 9～10 行目

修正前:傷病者と意思疎通ができる間に聞きとりをしておくこと。

修正後:傷病者と意思疎通ができる間に聞きとりを行う。

- P127 図 6-1-3 救命の連鎖 差し替え



図 6-1-3 救命の連鎖

(救急蘇生法の指針 2020 (市民用) より引用)

- P128 (2)心臓震盪

修正前:(2)心臓震盪 心臓震盪を予防するための

修正後:(2)心臓振盪 心臓振盪を予防するための

- P132 (6)人工呼吸

修正前:(記載なし)

修正後:以下内容を追記

- ③人工呼吸がためられる場合

人工呼吸をすることができない、または、人工呼吸がためられる場合(人工呼吸用補助具を持っていない場合、傷病者の顔面から出血がある場合、胃内容物の逆流がある場合、感染症への不安がある場合など)は、人工呼吸を省略し、胸骨圧迫のみ行う。

- P136 (11)新型コロナウイルス感染症流行期の対応

修正前:(11)新型コロナウイルス感染症流行期の対応

修正後:(削除)

- P215 7.各競技における救急体制の実際 (11)テニス

修正前:

- ① ヒートルール

暑熱対策として規定されたルールで、会場での気温が摂氏 35℃以上または WBGT 値で摂氏 32℃以上になった場合、最終セットの前に 10 分間のコート外での休憩が認められる。

試合開始の 30 分前、開始以降は 3 時間毎に測定し、ドクターまたはトレーナーがレフェリーとともに確認するとされており、常に環境モニタリングすることが義務付けされている。

修正後:

- ① ヒートルール

暑熱対策として規定されたルールで、コート上での WBGT が 30.1℃になった場合は、最終セットの前に 10 分間の休憩が認められる。

また、コート上での WBGT が 32.2℃以上になった場合は、試合の中断および開始の遅延を検討する。など、基準を超えた場合の暑熱対策がルールによって決められている。

WBGT の計測は、試合開始の 30 分前、開始以降は2時間ごとにレフェリーまたは、ドクター、トレーナーがコート上で計測するとされ、常に環境モニタリングすることがルール上義務付けされている。

さらに、落雷の可能性が示唆される状況も追加された。「雷」に対するルールは、雷雨が接近している場合、試合を中断することができる。

この状況判断基準は、稲妻が目撃されてから 30 秒以内に雷鳴が聞こえたら、試合を中断し全員が安全な場所に避難すべきとされている。また、試合を再開する判断基準には、最後の雷光が目撃されてから 30 分経過し、最後の雷鳴を聞いてから 30 分経過するまでは試合を再開すべきとルールに記載されている。

6 巻 検査・測定と評価

- P8~10 差し替えおよび新規で 2 ページ追加(別添参照)

※P11 以降は、2 ページずつずれる。本データは第 2 版のページ表記に基づく。

- P.31 第 3 章_1.形態の評価_2 姿勢・身体アライメント 円凹背(Sway back)の説明

修正前:

骨盤が前方へ変位し、股関節伸展位となる。重心を正常な位置に保つため胸椎部の後方移動が生じる。腰椎の前弯と胸椎の後弯が増強した姿勢を呈する

修正後：

骨盤が前方へ変位し、股関節伸展位となる。重心を正常な位置に保つため胸椎部の後方移動が生じる。腰椎下部は平坦化し、胸腰椎移行部の後弯さらには、胸椎の後弯が増強した姿勢を呈する